

【アンケート調査の結果と分析】

(1) アンケート概要

本市における地域課題を把握するため、市内の障害者（児）への支援を行っている福祉サービス事業者及び関係団体に、障害福祉に関する意見や、利用者及びご家族等からの意見などを把握し計画策定の参考としていく。

対象者 ： 市内福祉サービス事業者及び障害者団体 合計

調査方法 ： 郵送により依頼し、WEB もしくは郵送で回答

調査期間 ： 令和5年8月1日 から 8月31日

調査対象数 ： 各障害者団体及び福祉サービス事業所 合計160

回収率 ： 提出64 約40%

(2) アンケート回答 主な意見

① 日常生活や社会参加するなかで、現在困っていること

(障害者団体)

- ・長島に引っ越ししたら、点字ブロック、ガードレール等の敷設がないので困っている。コミュニティバスの本数を増やしてもらいたい。田町交差点の音響信号の音が出ていない音を出してもらいたい。
- ・精神障害をもって働くということは本当に大変で生きる意味を知る最適な場所だと思う。
- ・社会参加は無理、自治会の集まりやお寺の総会など、上手く話せないで尻込みしてしまい、代わりに家族に参加してもらっている。病気になってから運転が出来ないため、目的地への移動が大変。頭の中で思っている事や言いたい事があるが、失語症なのでそれを口に出して上手に言えず、話し相手から子どもに対するようなものの言い方をされる。社会参加する中で、言葉の理解に時間がかかり、相手がもどかしさを感じる事が多く、相手の表情を見て話すのをやめてしまうことがある。
- ・自立における手話でのコミュニケーション

② これからも地域で生活していくために、不安に感じることはどのようなことですか

(障害者団体)

- ・障害の程度が進んでくると地域の行事に出られなくて、理解されないのが不安。班長の当番が回ってきたときに、理由を伝えて断っても理解されないのが不安。地震や水害が発生した時の避難方法に不安。障害者専用の避難所を設けてほしい
- ・職場をやめずにずっとつづけていきたい。お金の面でちょっと苦労している。
- ・今は家族と一緒に自宅で過ごしているが、コミュニケーションがとれないので1人になった場合は施設入所を考えなければいけない。脳梗塞や脳出血の再発もあるので、体調には不安がある。体調不良がいつ出るか分からないので1人での時は不安。自治会役員や行事、ご近所の方と関わりで、病状をふまえた付き合い方をどのようにしていったら良いかわからない。失語症の認知度が低く、失語症者に対する理解がすすんでいない事。
- ・人との関わり特にちゃんと伝えられる、伝わっているかというコミュニケーション手段

③ 充実させてほしい障害福祉サービスや、必要なサービス

(障害者団体)

- ・買い物支援の充実 長島には買い物するところがない、移動販売みたいなものがあるといいヘルパーさんを増やしてほしい。ボランティアの方が高齢になりつつあるので、若い方の育成を望む。同行援護事業者を増やしてほしい。タクシー券を他の市でも利用できるようお願いしたい
- ・ピアサポーターを普及させてほしい。ピアサポーターとして働きたい！サロン化して経営していきたい！お金をかせぎたい！
- ・移動手段の補助や充実。会話パートナー(失語症者向け意思疎通支援者)の充実。障害はあるが介護認定では介護度がつかないのでデイサービスに行けない。家以外で過ごせる場所が欲しい。
- ・情報提供出来る機器 (目で視るもの→字幕など)

④ より良い生活のために、ご自身でどのようなことができますか

(障害者団体)

- ・勇気を出して外出すること。会話をする。
- ・毎日よく寝てかぜをひかないように仕事に支障がないように社会参加してゆきたい！
- ・仕事に復帰できるようにリハビリする。寝たきりにならないように、散歩やリハビリ運動を自分でしている。
- ・手話、字幕

1 担当の利用者さん、またはご家族から聞かれる日常生活や社会参加するなかでの 困りごとは、どのようなことがありますか (福祉サービス事業所)

《相談支援事業所》

- 重度の障害があり、事業所や会社、学校に通う手段がない。移動支援は通勤、通学には利用できない。移動支援の支給決定について、身体障害の方で高次脳機能障害もあり、一人での外出が困難であるが、車いすを使用していない家族が同居しているなどの理由により支給決定基準を満たしていないということで移動支援を利用することができず、気分転換できない状態が続いている。家族にも支援が必要な状態であり、日常生活の困りごとに対して、事業所の職員さんが（善意で）対応してもらっているケースがある。
- 親亡き後の生活をどのように送っていくか（住まい、身のまわりの事、金銭管理、財産管理等）の相談が多い

《就労支援 A》

- 精神障害の利用者は、調子が悪いときはカフェの来客にさえも不安感をつのらせることがあり、仕事や体調に支障をきたすことがある。訓練を続けることで、不調があっても社会参加できていることは喜ばしいことである。利用者の中には、幼い子供を抱える人や高齢の親の世話をしながら働いている人もいて、健常者以上に大変な日常を送っている。

《生活訓練・就労支援 B》

- 事業所が生活訓練の施設であるため、困りごとが出た際は基本、事業所で支援して解決しているため、現時点で思い当たるものはない。
- 自治会や町内会への参加（ごみ当番、町内清掃、寄り合いなど）自治会費、町費が高い。参加しなければいけない時に体調、メンタルが低下しているときに辛い。障害があることを言っていない（言いたくない）ので理解してもらえない。小学生、中学生の子供がいる。PTA 役員や行事への参加が出来ないときに苦しい。周りの方のご理解いただける何かがあると助かる。

《就労移行・定着支援》

- 一般企業の障害者枠で就職を目指していくにあたり、公共交通機関で通いやすい場所に条件に合った企業が無いこと。乗り合いの送迎バスなどがあれば、働く場所の選択肢が広がると思います。

《生活介護》

- 医療面での相談（精神科、心療内科）がうまくいっていない。てんかんと ASD を専門に見てくれるところが近くにない。医療と福祉の連携が取れてない。
- 難病指定を受けられたご家族、徐々に聴力を失うと診断を受けたご家族から、家庭での支援に関する不安。

《グループホーム》

- 通院、余暇活動、買い物、市への手続きなど各自の希望に沿った付き添いや、ヘルパー利用等が現実的には厳しい。ヘルパーの利用が時間数の問題。慣れた施設の職員となれば休日等、個別の支援が難しい（職員不足や支援費が別で発生するわけではなく運営上も厳しい、個人への負担が大変である。）

《児童発達支援・放課後デイサービス》

- 多動や大きな声を出してしまい、周りの方への迷惑を考え、公共施設等の利用がしにくいと聞きます。
- 学校での生活（エアコンがない部屋 洋式が少ないなど）市の施設が使いにくい（市民プールのスロープ、トイレなど）母が働いているが、夏休みなど行くところがない（健常の子）

2 担当の利用者さんが、これからも地域で生活していくために不安に感じておられることはどのようなことがありますか (福祉サービス事業所)

《相談支援事業所》

- ・高齢の親が利用者を見ているケースの親亡き後について。親が亡くなった後の手続きができるか不安。またそのあと地域で生活していけるか不安、難しい場合、施設は空きがなく、地域のグループホームは重度の方に対応していないところも多いので困っている。事業所で入浴する設備が整っていないため、訪問入浴を利用しているが、通所の回数が増えると利用できなくなるのではないかと不安を感じている。
- ・生活場所は持ち家があっても維持管理をしていくことができるかということもあり、アパートやグループホームでの生活を検討する必要がある。金銭管理は日常的なものではできるが、財産管理や大きな買い物など。病院受診は始めて受診が必要になった場合に付き添ってくれる人がいるか。書類管理は分からない時に教えてくれる人がいるか。相談場所は日常的に相談できる場所があるか？

《就労支援 A》

- ・周りの人たちの障害者に対する理解。人とのコミュニケーション。自立した生活、健康、収入、メンタルそれぞれの安定
- ・孤立への対策や、災害発生時の対策などに課題を感じている。

《就労支援 B》

- ・公共交通機関の運賃が高い。路線バスがなくなってしまうと困る。本数が減ったとしても続けてほしい。視力、聴力が弱く人との会話が不安。コミュニケーションをとりたいし、補聴器が欲しいが高くて買えない。自治会の地域の行事、集会に参加しなければいけないのが苦痛。今後、自分一人になった時に役員など任されても難しい。
- ・親亡き後の生活に不安を感じている。

《生活介護》

- ・65歳を過ぎた高齢障害者を親、姉が介護している。老々介護になり心配。65歳を過ぎた高齢障害者を兄弟が介護している。老々介護になり心配だが、他人を家には入れたくない
- ・行動障害があり、生活も全介助を要する。現在ある GH では利用が困難。

《グループホーム》

- ・親が家族亡き後の生活について不安はあるように思います。

《児童発達支援・放課後デイサービス》

- ・インフルエンザ（共栄共存）の遅れ。子供のうちは学校があるが、「大人になった時」、「私が死んだとき」子供はどうなるのか？などの不安
- ・社会に出てから安心して過ごせる場所。

《地域活動支援センター》

- ・自立して生きていくための収入の確保。事業所で働いて得られる収入（全粒粉）パン事業が収入につながるため事業所総力（障害のある人ない人すべて）をあげて商品開発、販売開拓、製造能力向上に取り組んでいます。障害者年金ほかの収入、障害者年金の取得に向け、ご家族と協力し取り組んでいます。障害者年金取得が困難ならば資格取得などの支援、手当の支給など検討。自立して生きていくための居住環境、GH等の居住環境づくりについて計画立案中。

3 担当の利用者さんの支援のために、充実させてほしい障害福祉サービスや必要なサービスはありますか (福祉サービス事業所)

《相談支援事業所》

- ・送迎サービス、短期入所（市内でできるところが増えるとありがたいとの声あり）、日中支援型のグループホーム、医的ケア対応のグループホーム

《就労支援 A》

- ・障害福祉サービスを利用するにあたり、育児に関するサービスや高齢の家族に関わるサービスを1か所で受けられるようにしてもらいたい。そうすることで利用者自身の負担軽減につながると思われる。
- ・自立した日常生活、社会生活を営むことのできるよう障害者福祉サービス給付支援の充実。

《就労支援 B》

- ・公共交通機関での障害者割引（すべての線路で）。24時間365日電話対応サービス。託児所、子供を預かってもらえるところ（割引、無料で）。送迎サービス。駐輪場を増やしてほしい。事業所内での利用者さんの仕事（内職が欲しい）
- ・災害時に緊急時に指示を出してくれる。例えば、行政が地域の自治会長・民生委員に避難誘導や支持をお願いできる方を増やしていただく ※移動支援を受給量をもっと増えることを希望する。病院等の受診なども付き添っていただき、ドクター等の話をご家族のいる保護者（事業所職員）などと ZOOM 等で話が聞ける状態になったらいいと考えます。

《生活介護》

- ・一日の複数サービスの利用（生活介護、就 A、B、日中一時など）。生活介護での訪問支援サービスの認可。施設への送迎の移動支援サービスの認可。・市内でのショートステイの充実。グループホームの充実。・経済支援。緊急時に利用できるデイサービスやショートステイ。65歳を過ぎると介護保険に移行するのではなく、障害サービスも選べるようにする。公的に認められていないサービスであっても特例で認めるなど、柔軟に対応できる行政の仕組みづくり。ヘルパー事業の充実。・病院までの付き添い及び本人に代わる説明。
- ・成長によって身体が大きくなり、それに合った適切な車いすが提供されるように必要時に車いすの変更できるサービス。

《グループホーム》

- ・医療型 GH、日中一時 GH。医療の方の GH や過ごし方の問題（日中活動の場、夕方、夜用）（肢体および強度行動障害）災害時の避難場所。・緊急時（ショートステイ）の扱い。職員増に伴い支援費の増額

《児童発達支援・放課後デイサービス》

- ・収入による負担額での37200円世帯への補助。市の施設（プール、体育館など）の充実。多度の学校も大切だが、現在の学校の充実（古い、エアコンない、エレベーターない）
- ・イベント等ではなく、普段から地域の方との交流の場があるとよいと思います。

《日中一時支援》

- ・土日祝日に過ごせるサービス施設が少ない。

4 担当の利用者さんのよりよい生活のために、事業所職員ができると思われることは どのようなことですか (福祉サービス事業所)

《相談支援事業所》

- 本人が希望する限り生活介護サービスの提供を継続すると同時にケアマネとの連携に留意する。本人が希望する限り生活介護サービスの提供を継続することで、ケアマネやほかのサービスを受け入れられるように無理のない範囲で提案を続ける。必要に応じ市にも相談をする。あらゆることに関して相談しやすい信頼関係の構築と環境の整備に努める。
- 事業所や地域に対して不足している資源の提案をすることで、よりよい生活に繋がると考えます。

《就労支援 A》

- 人権尊厳を守り理解し接する。就労や自立支援に向けての支援。気持ちを理解し一緒に考え見守りを行う。
- 日常生活や社会生活を送るうえでの困りごとが、とても些細なことであっても自身で判断や解決することが出来ず、同居家族が高齢などの理由で頼ることが難しい又は頼る人がいない利用者は多々います。彼らにとって事業所の職員の存在は、心の不安から携帯電話の操作のことまで、いつでも何でも気兼ねなく話が出来て、「自分は社会で一人ではないのだ」と感じてもらうことだと思います。

《就労支援 B》

- 利用者さんから相談されても力になってあげられない内容だった時に専門の方、話を聞いてあげられる方を紹介できる一覧表などがあると助かります。

《生活介護》

- 強度行動障害があり、生活の全介護も必要な場合にどのような GH の利用方法は可能か？また現在ある GH の利用の要件などを学ぶ。あらゆることに関して相談しやすい信頼関係の構築と環境の整備に努める。
- ご家族と日々顔を合わす利点を生かし、様子を観察し、家族支援という本人のストレングスの低下を補うサービスを無理強ひなく提案し、相談事業所につなぐ。(相談事業所に繋げることができるよう幅広い障害福祉サービスの知識を学ぶ) あらゆることに関して相談しやすい信頼関係の構築と環境の整備に努める。

《グループホーム》

- つなごう手と手を 地域の方の方々の力をお借りして彼らが安心して生活できる場をもとめていくことで共に学びともに育ちあい地域に発信していけることがお互い心豊かになっていけたらと思います。

《児童発達支援・放課後デイサービス》

- 普段、ご家族が連れていけない場所へお出かけしたり、経験、体験をさせてあげることで、子供たちの心身の発達が促されるのではないかと思います。また、人との触れ合いによって、人を好きになってくれたり、人から好かれる子になってくれるのではないかと思います。
- 市や学校と連携できる機会があるといいなと思います。機会があれば参加したいです。今後もよろしくお願いたします。

《居宅介護》

- 職員が市や地域で取り組んでいる活動などを把握し、利用者の方が困っているニーズに対して迅速に解決できるよう、各サービスや支援を結びつける

(3) アンケートからみえてきたこと

1. 障害者への理解
2. 生活環境について
3. 将来への不安について
4. 災害時への備え